

- 小笠原諸島は、かつて一度も大陸と陸続きになったことがない海洋島であり、鳥や風、海流等に運ばれ偶然辿り着いた動植物のうち、環境に適応した種だけが生き残り、隔離された環境下で様々な進化をとげ、多くの固有種が誕生した。
- 在来の維管束植物441種のうち161種、昆虫類1,380種以上のうち379種、陸産貝類130種以上のうち108種が固有種である*。世界的に見ても高い固有性を有し、現在も適応放散や種分化などの進化過程が進行している。（*世界自然遺産小笠原諸島管理計画（2024(R6)年5月）による）

小笠原諸島の景観

美しい砂浜が多数存在するとともに、多くの固有種からなる独自の植生が見られる。



父島 小湊海岸



南島 扇池



兄島 乾性低木林



母島 湿性高木林

小笠原諸島固有の生物

植物

- ・ アサヒエビネ
- ・ ウラジロコムラサキ
- ・ ハハジマノボタン 等

哺乳類

- ・ オガサワラオオコウモリ



ウラジロコムラサキ

鳥類

- ・ ハハジマメグロ
- ・ アカガシラカラスバト
- ・ オガサワラカワラヒワ
- ・ オガサワラノスリ 等



ハハジマメグロ



オガサワラカワラヒワ

昆虫類

- ・ オガサワラハンミョウ 等

陸産貝類（カタツムリ）

- ・ キノボリカタマイマイ
- ・ チチジマカタマイマイ
- ・ オガサワラオカモノアラガイ 等



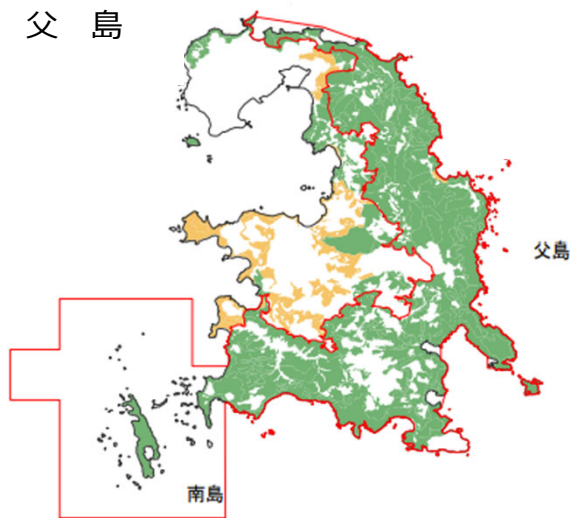
オガサワラオカモノアラガイ

「小笠原諸島」における林野庁の取組

- 2007(H19)年、約5千5百haの国有林野(世界自然遺産区域内外にわたる)に「森林生態系保護地域」を設定。
- 希少動植物の保護や固有森林生態系の修復、保護と利用の調整等により適切に保護・管理。

世界自然遺産地域と国有林野 (小笠原諸島森林生態系保護地域)

父 島



母 島

遺産地域面積：7,940ha
(うち陸域：6,358ha)

遺産地域における
国有林野面積：5,170ha

遺産地域
森林生態系保護地域 保存地区
森林生態系保護地域 保全利用地区

※父島及び母島のみを掲載

希少鳥類・植物等の保護

- アカガシラカラスバト、オガサワラカワラヒワ、オガサワラノスリなどの希少鳥類や、ハハジマノボタンなどの希少植物の生息・生育状況等の調査、生息・生育環境の維持のための巡視、生息・生育区域の保護等を実施



アカガシラカラスバト



ハハジマノボタン

保護と利用の調整

- 利用による固有森林生態系へのインパクトを軽減するため、森林生態系保護地域の入林を指定したルートに限定
- 指定ルートの入口には、外来種の拡散防止対策のため、泥落としマット等を設置

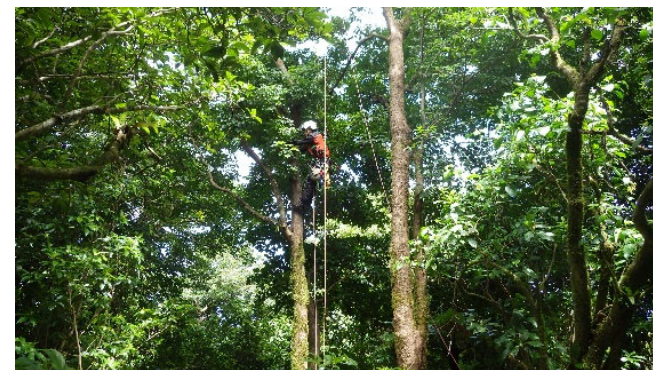
小笠原諸島への入込客数	
遺産登録前 (H22年度)	約2万人
遺産登録後 (R6年度)	約3万人



泥落としマット等

固有森林生態系の修復

- 希少種・固有種等の生息・生育環境に悪影響をおよぼすアカギやモクマオウ、リュウキュウマツ等の外来種の駆除を実施

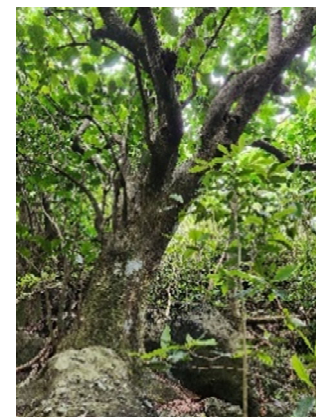


アカギの特殊伐採

- 生育数が激減しているオガサワラグワについて、生育状況及び生育環境の調査を行うとともに、クローン苗を試験的に植栽し、生育状況のモニタリングを実施



試験植栽された
オガサワラグワクローン苗



弟島に残存している
オガサワラグワの巨木